

ローコード・ノーコード開発で行革を(大分県別府市)

～自分たちで課題を見つけ、自分たちで解決策を考える、自立した自治体を目指して～

取組概要

- 令和元年6月別府市では、全国の自治体に先駆け「BEPPU×デジタルファースト」を宣言した
- ローコード(又はノーコード)を活用し、職員の手作り(内製)で行政改革に取り組んでいる
- 利用しているツールは、RPAとkintone(及びkintone連携ツール)(どちらもロー(又はノー)コード開発可)
- 内製だから「いいものができる」、「すぐにできる」、「効果が大きい」
- 内製は「自分たちで課題を見つけ、自分たちで解決策を考え、実行に移していく」風土を醸成する
- その風土が、各職員が行革を意識せず自然に自ずから考え取り組む自立した自治体へと繋がっていく

取組の効果【RPAに関して】

職員の年間作業時間



適用業務数・内製率



※6月30日までの実績値
※RPAのみの実績を掲載

定量的効果(費用体効果)



- コスト<定量的効果+定性的効果+心理的効果
- 定量的な効果として残業時間の縮減もあるが未集計
- 金額換算より職員が楽になった、という感想を重視
- コストはR3.3末、効果はR2.6末時点なので、年度末は大幅に効果が上回る
- 自分たちで課題を見つけ解決するという風土に繋がる

創意・工夫した点

- ① 職員の内製にこだわる
- ② 課・職員のやる気を引き出す
- ③ すぐに開発し、すぐに利用できること

他団体へのアドバイス

- ① やりたいと思ったらすぐに着手してみませんか
- ② 内製はそんなに難しくありません
- ③ 詳細な計画の前に気軽に取り組みませんか

人口 130,423人(R2.1.1現在)

担当 企画部 情報推進課

BEPPU × デジタルファースト宣言

目的(宣言)

市民、職員、国、他県に向けて、デジタルのちからを最大限活用する施策により市民サービスの向上・地方創生・生産性の向上・働き方改革さらには、観光立国日本におけるモデル都市としてのブランドを確立する。

3つの戦略

- 市民サービスのデジタルファースト**
デジタルのちからを活用し、市民の利便性の向上を実現するサービスを提供する。
- 行政運営のデジタルファースト**
デジタルのちからを活用し、効率的な行政運営を行い、余力を生み出し市民に寄り添うサービスへ注力する。
- 観光戦略のデジタルファースト**
デジタルのちからを活用し、マーケティング・広報の改革・強化を図り、別府の魅力を増強する。

市役所の職員みんなではじめるデジタルファースト

BEPPU×デジタルファースト宣言



R2.7.6 令和2年7月豪雨
避難所が開設されたときのホームページ画面
(kintone+KViewerで作成)